農協だより

JAくしろおおた

2026
令和8年
11
No.108







今月の表紙は
第10回 酪農祭の
様子ミル
ご来場、ご協力
ありがとう
ございましたミル



INDEX

- 第10回ＪＡ釧路太田酪農祭 …… 2
- 二番草・デントコーン収穫作業終了 …… 6
- ＪＡ北海道大会実践フォーラム …… 7
- 大学生酪農体験インターンシップ …… 8
- ＪＡトピックス ……10
- 新規採用•退職職員 ……12
- 農協法公布記念日メッセージ ……13
- 営農ホットライン……14
- ＪＡインフォメーション……16
- みんなの広場 ……16

釧路太田農業協同組合
←JA釧路太田オフィシャルウェブサイト
www.ja-kushirooota.or.jp/
ja釧路太田






第10回 JA釧路太田 酪農祭






鈴木貴子衆議院議員より挨拶

三浦町長より挨拶

齋藤組合長より開会挨拶

令和8年10月10日㈯、第10回目となる「JA釧路太田酪農祭」を開催いたしました。10月に入り朝夕は肌寒い季節となりましたが、当日は、秋の訪れを感じる絶好の晴天に恵まれました。

開会式に先立ち、8日㈭に行なわれたパークゴルフ大会の表彰式を執り行いました。大会は、総勢27名(男性15名・女性12名)が参加し、男性の部は荒井久和さんが、女性の部は永堀遖子さんが、熱戦を制し見事優勝を果たしました。また、菅原京子さんが、ホールインワンを達成するなど会場は大いに盛り上がりました。参加された皆様本当にお疲れさまでした、来年のご参加も心よりお持ちしております。

当日は、9時30分より受付を開始し、10時00分に齋藤組合長による挨拶で酪農祭がスタート、来賓の三浦町長からも温かいご祝辞をいただきました。

今年の酪農祭でも、厚岸町内で育てられた牛肉を格安で提供。用意された焼き肉用のコンロを囲みながら焼き始めると会場内は香ばしい煙につつまれ、会場のあちこちで美味しい牛肉や無料提供されたサンマに舌鼓を打つ姿が見られ、ビール片手に会話も弾んでいました。




また、毎年好評のキッチンカーも5台が出店し、当JAの極みるくソフトクリームや釧路のソウルフードジョイパックチキン、ザンタレバーガーやたい焼き、コーヒーなど、いろいろなグルメが勢ぞろいしました。また、厚岸町商工会による子供縁日や職員企画で焼きそばやホタテ焼き、いか焼きも出店し、商品を求めて長打の列ができ終始賑わいを見せておりました。











ステージイベントでは、最初に牛乳の早飲み大会が行なわれ、子供や大人たちが一生懸命にストローを使って、牛乳を一気に飲み干し速さを競い合いました。次にじゃんけん大会が行われ、司会者の掛け声で齋藤組合長、佐々木振興会長、村田女性部長が、それぞれ参加者とじゃんけんをし、中々勝負がつかない場面もありましたが、会場も大いに盛り上がっておりました。

正午からは、一昨年、昨年に続き大好評だった札幌市出身のシンガーソングライターおかゆさんの歌謡ショーを開催。熱烈なファンの方も駆け付けるなか、ナイツ塙さんとのデュエット曲「愛の道草」のほか、老若男女に合わせた多彩なジャンルの楽曲を10曲以上も披露していただきました。終演後のCD販売やサイン会も大盛況で、その人気の高さを実感させられました。

午後1時となり、皆様お待ちかねの「お楽しみ大抽選会」が始まりました。農業関係団体や各農機具メーカー様、齋藤組合長、徳田会長から多くの豪華景品をご協賛いただきました。また、抽選会の途中で急遽駆けつけてくださった鈴木貴子代議士からもご挨拶をいただき、会場をさらに盛り上げていただきました。抽選会の目玉である阿寒湖畔「鶴雅ペア宿泊券」2本の抽選では、会場全体が全員固唾を飲んで見守る展開に・・・。当選された方の喜びの歓声と惜しくも外れた方々のため息が包むなか、大抽選会が幕を閉じました。

祭りの締めくくりには、恒例の「お菓子まき、餅まき」を行い、子供も大人も帽子をかざしたり、両手を伸ばしながら、楽しいひとときを過ごしました。

閉会式では、佐々木振興会会長より閉会のご挨拶をいただき、第10回目となる酪農祭が無事に終了いたしました。

来年もさらに皆様に楽しんでいただけるよう、新しい企画を考えていきたいと思いますので、またのご参加を心よりお持ちしております。


佐々木振興会会長
閉会の挨拶

第10回 JA釧路太田 酪農祭










































令和8年

2番草もデントコーン細断も収穫作業終了！













今年の2番草については、8月18日より細断収穫作業が開始され、約920ha(23戸)の農作業委託面積を3班体制にて収穫を行いました。

8月26日には細断作業を無事終了する事が出来ました。ロール収穫作業においても10月上旬にはすべて完了致しました。

デントコーンにおいては、例年より積算気温は低い状況でしたが生育は良く9月上旬に生育調査を実施し、9月23日より細断収穫作業が開始され、約396ha(17戸)の農作業委託面積を2班体制で収穫を行いました。

生育も順調に推移していたため、当初日程より5日ほど作業は遅れましたが、10月9日にはすべてのデントコーン収穫作業を終えることができました。

これからも秋作業(糞尿散布・耕起・心土破砕・砕土・除草等)がまだあると思いますが、焦らず気持ちに余裕をもって、怪我や事故のないよう農作業を取り進めて下さいますようお願いします。

組合員の皆様をはじめ、コントラ作業に携わったすべての方々に対し、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





JA北海道大会実践フォーラムに参加して

～未来を拓く「人づくり」と「組織結集」について学ぶ～

令和8年10月16日、札幌市にて「第31回ＪＡ北海道大会実践フォーラム」が開催され、全道から約５４０名の役職員・組合員が参加されました。本フォーラムは、大会決議「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立」に向け、次世代を担う「人づくり」と「実践の加速」の重要性をグループ全体で共有し、実行への機運を高めることを目的としています。



○基調講演：結集力強化への想い

ＪＡ和歌山中央会の坂東紀好会長は、「ＪＡ最大の強みは総組合員を含めた組織結集力にある」と強調されました。事業や単体ＪＡの『縦割り』を越え、役職員と組合員が一丸となって取り組むことこそが地域農業を守る基盤であると示され、組織の原点を再確認しました。







○実践報告：ひとを育み、地域と歩む

ＪＡ北海道中央会からは「人財育成と食農理解醸成」のロードマップが示され、「ＡＧＲＩＡＣＴＩＯＮパーク」でのイベントも紹介されました。続いてＪＡ北ひびきの佐藤久常務より、地域と信頼を築く人財育成の３ポイント（①人財育成を後回しにしない、②研修の内製化、③継続的な学習）の事例報告が発表され、若手営農指導員の育成講座など、当ＪＡでも即座に参考にすべき実践例が報告されました。

フォーラムを終えて感じたことは、環境が変化する今、地域の課題を解決できる人を育てる「人財育成」こそが、最も確実な未来への投資であると痛感しました。ＪＡ人としての誇りを胸に、ここで得た「組織結集」と「人づくり」の学びを日々の業務に結び付け、組合員や地域のみなさまと共により強いＪＡを築いて行かなければと思いました。



大学生酪農体験インターンシップ

令和8年7月30日～9月11日の期間中（実滞在40日間）に夏休みを利用した酪農に非常に興味のある大学生に対し、インターンシップ受け入れを決定し、参加者として12名が酪農体験を実施致しました。

学生の内訳については、日本獣医生命科学大学、東京農業大学、日本大学、関西学院大学の4校で男性4名・女性8名（うち1年生2名・2年生4名・3年生6名）となり、当JAの酪農体験期間は基本4泊5日以上となっておりますが、3年生においては、希望により9泊10日の長期間の滞在となりました。

この度、非常に多くの大学生より問い合わせがあり、残念ながらお断りもした学生もいる中で、限られた期間の中で厳選して受け入れさせて頂きました。この背景には、釧路酪農チャレンジ60「946運動」の一環の中で労働力担い手確保を目的とした「WELCOMEデイリー運動」と称し、釧路管内JA一体で連携し、人材確保に対する取り組みをしており、その中でも道内外農業系、動物系への学校訪問や学生















説明会、農業人フェア、独自の釧路酪農相談会でのＪＡプレゼン等、年間通し様々な推進活動の結果と考えております。担い手不足の課題はどのＪＡも一緒なので粘り強く続けていく必要があります。

体験カリキュラムとしては、基本的には搾乳作業（繋ぎ搾乳・パーラー搾乳の２パターンどちらも）、哺育のミルクやりや育成の給餌作業、各畜舎等の清掃作業を中心とした中で、さらに別日や日中合間などを利用し、実作業体験でＪＡ哺育育成センター、ＪＡ牛乳工場、初生集荷、視察研修として家畜市場、共進会、ＪＡコントラ農作業機械、ロボット搾乳、自給貯蔵施設、糞尿処理施設、酪農知識向上として座学などを組み込み、学生にとり有意義であるものに設定致しました。





この度、お忙しい中、趣旨をご理解頂きご協力頂いた12戸の受入農家の方（古川牧場・渡部牧場・小澤牧場・河村（芳）牧場・木原牧場・齋藤（泰）牧場・小山牧場・村田牧場・小野寺牧場・福田牧場・澤口牧場・サポートファーマーズ）には、大変お世話になりました。

この酪農体験期間中を通し、早朝勤務や未知の作業、大動物等、慣れない環境下の中、常に向上心もあり前向きでチャレンジ精神も強く、体験見学というよりはほぼ実践に近い状態で作業しておりました。この度の貴重な酪農体験で北海道酪農、そして厚岸町の生乳生産現場への理解やこれからの必要スキルや知識の習得意識も高まり、大変満足のいく有意義なものとなり、また機会をつくり来たいと話していました。





ソルガム（ソルゴー）収穫









令和8年10月8日から12日にかけて、JA草地並びに草地利用組合で試験的に栽培していたソルガムの収穫作業を実施しました。生育状況ですが、草丈については品種によって3mに達する成長を見せ、概ね順調に推移していましたが、収穫直前に鹿の食害を受けた圃場も散見され、また雑草の多い圃場については単収の低下も見られましたが、全体としては収量、品質ともにまずまずの結果となりました。今後はサイレージの分析、実際の牛への給与を通じて情報の収集、分析を重ね来年以降の栽培計画に反映していくとともに、組合員の皆様にも情報提供の機会を設けてまいります。

釧路太田肉牛同志会 パークゴルフ大会開催！





令和8年10月23日㈮9時より，太田農村公園パークゴルフ場にて第55回釧路太田肉牛同志会（秋）パークゴルフ大会が開催されました。

天候は良好で、会員16名が参加され、和気あいあいとした雰囲気で最後まで楽しくプレーされていました。

プレー結果は、

〈男性の部〉
優勝 松浦勇三さん
準優勝 永堀善道さん
3位 中山康彦さん

〈女性の部〉
優勝 永堀逎子さん
準優勝 橋本日出子さん
3位 木原美知子さん

以上が入賞されました。

とても僅差なスコアとなりました。







インフォメーションバザール in Tokyo 2026 出展！

令和８年８月26日～27日の２日間で開催されたインフォメーションバザールに極みるくシリーズの出展を行いました。

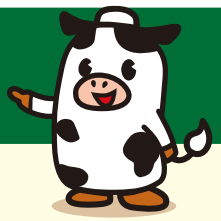
インフォメーションバザールとは道産食品を首都圏への販路拡大を図るための食品展示会であり、首都圏のバイヤーとの接点を図るイベントです。

極みるくシリーズとしてソフトクリームマシンを設置し、その場で搾りたての極みるくソフトクリームを試食していただきました。

極みるく65や極びぃふシリーズもあわせて紹介し、多くのバイヤーとの接点を持つことが出来ました。試食の反応も非常によく、首都圏の多くのバイヤーとの取引につながる出展となりました。



共済規程の一部変更について



組　合　員　各　位

釧路太田農業協同組合
代表理事組合長　齋　藤　泰　広

共済規程の一部変更について、下記のとおり令和８年８月18日第６回理事会において議決しましたので、定款第52条第３項の規定にもとづき掲示いたします。

なお、変更の内容については、今後、北海道知事の承認を受け、効力が生ずることとなります。

記

１．変更内容

自動車損害賠償責任共済について、法令改正への対応を行うとともに、現行実務との整合等を図るため、共済規程の一部を変更する。

２．実施時期

令和９年４月１日

以　上

令和8年度

新職員のご紹介



●氏　名……米田（よねた）　愛（あい）
●配属部署……営農畜産課
●出 身 地……登別市
●血 液 型……A型
●趣　味……美味しいもの探し、家族でお出かけすること、キャンプ
●特　技……フットワークが軽いこと
●JA職員としての抱負

まだまだ勉強中ですが、一日でも早く仕事を覚え知識や経験を積み重ねながら、日々成長していきたいです。
乳製品のおいしさをたくさんの方に届けられるよう安心・安全でおいしい商品づくりを目指して、頑張ります。

退職の挨拶



営農畜産課
生産振興係兼畜産係
小　島　一　太

この度、一身上の都合により令和8年10月31日をもちまして退職させていただくこととなりました。約5年間本当に貴重な経験をさせていただきました。たくさんの方々のご指導があり、日々成長させていただくことができました。そしてたくさんの思い出もあり、本当に充実した時間を農協職員として過ごすことができました。これまで経験したこと、学んだことを活かして次の場所でも頑張りたいと思います。

組合員、役職員の皆様のご健勝、ご多幸と釧路太田農業協同組合のますますのご発展をお祈り申し上げ、退職のご挨拶とさせていただきます。

大変お世話になり、ありがとうございました。

JA綱領

―わたしたちJAがめざすもの―

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則(自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等)に基づき行動します。そして地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

一．地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
一．環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
一．JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
一．自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
一．協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。



農協法配布記念日にあたっての組合員・役職員へのメッセージ

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長　樽井　功

昭和22年11月19日に農業協同組合法が公布されてから79年を迎えます。

戦後の食糧不足のなか、農業者自らが力を合わせ、農業生産の向上と農業者の地位向上を図るために農業協同組合が誕生しました。

以来、ＪＡは自主・自立、民主的運営、そして相互扶助の精神を礎に、組合員の営農と暮らしを支え、地域社会の発展に貢献してきました。

一方で、現在の農業・農村を取り巻く環境は大きな変革期にあります。気候変動による自然災害の激甚化や資材価格の高騰、人口減少による担い手・労働力不足、さらには世界的な食料需給の不安定化など、私たちは多くの課題に直面しています。

こうした時代だからこそ、協同組合の原点に立ち返り、組合員・役職員が心を一つにして行動する「結集力」がこれまで以上に求められています。

第31回ＪＡ北海道大会では、「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現を将来ビジョンとして掲げました。その実現に向けては、組合員・ＪＡ・連合会がそれぞれの役割を果たしながら、実践を積み重ねていくことが重要です。

10月16日に開催したＪＡ北海道大会実践フォーラムでは、「結集力」をキーワードに各地の実践事例や課題を共有し、組織全体の機運を高めました。

これからも「ひとを育み、ひとと歩む」という視点のもと、人づくりと協同の輪をさらに広げてまいります。

また、国際協同組合年を契機として高まった協同組合への期待を未来へつなげるためにも、農業・食・ＪＡの価値を地域と共有し、次世代へ引き継いでいかなければなりません。私たち一人ひとりが協同組合の担い手として対話を深め、地域住民とのつながりを強めることが、持続可能な北海道農業と地域社会の礎となります。

ＪＡグループ北海道は、これからも組合員・役職員の皆さんとの対話を大切にしながら、協同組合の理念と精神を組織結集力につなげ、組合員の皆さまが将来に夢と希望を持って営農と生活を続けられる環境づくりに全力で取り組んでまいります。農協法公布記念日にあたり、協同の力への誇りと感謝を胸に、皆さまとともに未来を切り拓いていくことをお誓い申し上げ、メッセージといたします。

営農ホットライン

釧路農業改良普及センター釧路東部支所

乳房炎について

冬は牛舎内が凍らないように窓を閉め切るため、湿気がこもりがちになり、菌が繁殖しやすいです。冬場も油断せず、乳房炎を予防して乳質の維持・向上を目指しましょう。

1．換気について

換気量が不足すると結露によるカビの発生だけでなく、乾物摂取量も低下するため牛の抵抗力が弱まり、乳房炎に感染するリスクが上昇します。

水場が凍結しない程度に、日中は窓の開放、夜間は換気扇や送風機を稼働させましょう。

自然換気の場合は窓を少しだけ開けておくことも効果的です(写真１)。



写真１)少しだけ開けた窓

2．敷料について

大腸菌などの環境性乳房炎は牛床や乳房の汚れが原因となることが多いため、しっかり敷料を敷くことや、こまめな掃除が大切になります(写真２)。

特に、掃除はすぐに行うことができ、最も低コストな対策です。牛の汚れが目立つ場合はスクレーパーの稼働回数や、糞かき棒の配置数を増やすなど、作業性を良くするなどの工夫が有効です。

また、牛床乾燥のため石灰資材の散布や、敷料に混ぜて殺菌することも効果的です。石灰資材が直接乳頭に触れると皮膚が荒れるため、牛床に散布する場合は週に１～２回程度に留めましょう(写真３)。



写真２)十分な敷料



写真３)牛床への石灰資材

3．飼養管理について

低カルシウム血症により乳頭括約筋が緩むと、開いた乳頭口から菌が侵入して乳房炎の原因となります。そのため、定期的に粗飼料の分析を行い泌乳期中にはカルシウムの充足、乾乳期間中はミネラルバランスを適正に保ち、低カルシウム血症を予防することも乳房炎予防につながります。

飼料設計のご相談は是非、普及センターにご連絡ください。

滑り止め　つけておきたい　足と口

■お問い合わせ先／普及センター東部支所　TEL.0153-65-2021

北海道立総合研究機構酪農試験場

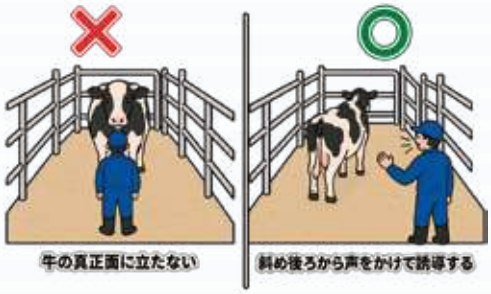
農作業事故を防ぐために

酪農試験場　乳牛グループ　遠藤　哲代

北海道では令和７年度に2,115件の農作業事故が発生し、12人が亡くなりました(令和７年度農作業事故報告書)。負傷事故では家畜(牛・馬・豚)による事故が789件と最も多く、過去10年間では家畜による負傷事故の83.9%を牛が占めています。根室管内でも213件の事故が発生しています。事故は本人の「不注意」だけでなく、作業方法、機械や施設、作業環境、農場内のルールなど、複数の要因が重なって発生します。日常作業の中にある危険を見つけ、事故が起きにくい作業方法や環境をつくることが大切です。

牛との作業：逃げ道を先に確保する

牛の進路に立ったり、牛と壁・柵の間など逃げにくい位置に入ったりすると、踏まれる、蹴られる、挟まれる事故につながります。牛の真正面や後肢の近くを避け、牛の動きを見ながら、側方から十分に距離をとって声をかけて誘導します。作業前には自分の退路を確認し、可能な場所では柵・ゲート・マンパスなどを利用して、人と牛の動線を分けます。滑る床や暗い通路、壊れた柵も早めに改善しましょう。



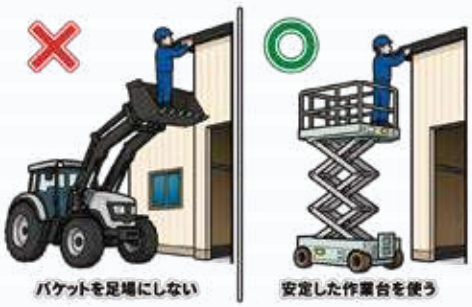
農業機械：止めてから触る

ロールベーラなどの回転部に牧草が詰まったとき、機械を動かしたまま手足を近づけると、巻き込まれなどの重大事故につながります。点検や詰まり除去の前は「ＰＴＯを切る→エンジンを停止する→キーを抜く→回転部が完全に停止したことを確認する」を共通手順にします。また、衣服の袖口を閉じるなど、回転部に巻き込まれにくい服装で作業することも大切です。



高所作業：用途に合った設備を使う

ローダーのバケットを足場代わりにしたり、不安定なはしごや脚立から身を乗り出したりすると、転落事故につながります。高所では、高所作業車など人を載せる用途に適した設備を、平坦で安定した場所で使用します。作業者は手すりの内側で無理な姿勢をとらず、ヘルメットなど必要な保護具を使用します。短時間でも「バケットで済ませる」ことをしないよう、農場内の共通ルールにしましょう。



作業前にもう一度確認

暑　　さ：暑さ指数(ＷＢＧＴ)などを参考にし、水分、休憩、体を冷やせる場所を準備します。
単独作業：できるだけ避け、一人になる場合は家族や同僚に作業場所と終了予定時刻を伝え、定時連絡のルールを決めます。
トラクター：安全キャブ・フレームを適切に使用し、道路でもほ場でもシートベルトを着用します。道路走行前は左右ブレーキの連結、灯火・反射器なども確認します。

※令和９年１月１日以降に製造された乗用型トラクターを道路走行させる場合は、シートベルトの着用が義務となります。

令和８年（2026年）11月 行事予定

2 (月)	初生集荷	14 (土)	あっけし牡蛎まつり～15日
3 (火)	文化の日	15 (日)	新・農業人フェア東京EXPO
4 (水)	ＪＡ釧路太田役員視察研修～７日	17 (火)	初生集荷
5 (木)	一般市場	19 (木)	一般市場
6 (金)	育成市場	23 (月)	勤労感謝の日
9 (月)	ヨーネ病５条検査～12/2まで	24 (火)	初生集荷
10 (火)	初生集荷	25 (水)	Aマート売り出し
11 (水)	Aマート売り出し	26 (木)	一般市場
12 (木)	一般市場	27 (火)	乳牛市場
14 (土)	釧路酪農相談会（東京エゾハブ）		

みんなの広場 コミュニケーション

編集後記

いつも広報誌をご覧いただきありがとうございます。

今年の酪農祭も皆様のご協力のもと、無事に終える事ができ、ありがとうございました。

昨年は、風が強く寒さを感じましたが、今年は、秋晴れの下で開催ができ、良い酪農祭になったなぁと思います。

また、パークゴルフ大会に参加された皆様おつかれさまでした。

良い結果だった方、そうじゃなかった方もおられたかと思いますが、来年のご参加もお待ちしております。

これからどんどん寒くなりますが、元気にお過ごしください（笑）

編集担当／S.W





『声優・生天目仁美／生誕50年』僕の大好きな声優で、ルパン三世に未だ出ていない方でもある。宮間夕菜（'26年４月号参照）とキュアハートたちの声優つながりコラボを描いてみました。

ペンネーム／猫兄貴

■発行・編集：釧路太田農業協同組合（厚岸郡厚岸町太田5の通り19番地1　TEL.0153-52-7151）
■発行日：令和８年11月１日　■印刷所：㈲厚岸印刷